

林 土 連

NO. 273
RINDOREN KAIHO



令和5年度林野庁治山・林道工事コンクール 林野庁長官賞
檳榔治山工事 相内建設株式会社（青森林業土木協会）

主な記事

令和6年度林土連技術現地研修会等の開催
令和7年度林野公共事業予算に関する要望活動
会員からの声



令和6年度 林土連技術現地研修会を開催

今年度の技術現地研修会は、大阪林業土木協会の全面的な協力のもと、全国から約140名の会員が参加して、10月22日（火）～23日（水）の両日、広島市を中心に開催しました。

1 室内研修

研修会1日目の室内研修は、G7広島サミット2023が開催されたグランドプリンスホテル広島瀬戸内海の絶景が望める美しい環境の下で行われました。



新谷会長の挨拶

「研修会冒頭、新谷会長から「日本経済が回復に向かう中、建設業界では資材価格の高騰や人件費の上昇に加え「グリーン投資」や「IT投資」等の設備投資が必要となってきた。このような建設業界の現状を乗り越えていくためには建設現場の省力化や優秀な人材の育成確保などが課題となる。そういう意味でもこの研修会は我々会員にとって大変重要な研修会だと認識している。参加された会員の発展に繋がるよう広島での2日間を有意義な研修会としていただきたい」との挨拶がありました。



高橋近畿中国森林管理局長

来賓としてご出席いただいた近畿中国森林管理局の高橋和宏局長からご挨拶をいただいた後、今年の林土連現地研修会を担当した大阪林業土木協会の泉 巖会長から熱烈的な歓迎の挨拶がありました。

研修会では、近畿中国森林管理局の中井泰亮治山課長から「近畿中国森林管理局における治山事業の取組み」と題して、管内の民有林直轄治山工事の概要や森林土木工事におけるICT技術の活用事例、さらには地震や豪雨に見舞われた能登地方の災害復旧対応などについて具体的なご説明をいただきました。



泉大阪協会会長

2 研修交流会

室内研修会場と場所を同じくして開催された研修交流会には、公務多忙の中にもかかわらず、広島県の玉井優子副知事と川崎耕作林業振興担当部長にご出席いただきました。

新谷会長の開会の挨拶に続いて、玉井副知事から、「全国各地から広島県にお越しいただき歓迎する。林土連の皆様には日頃から自然災害の被災地において迅速な災害復旧に尽力いただいていることに感謝申し上げます。広島は、山と海に囲まれた自然豊かな地域で、山の幸も海の幸も豊富なので、是非この機会に広島の名産も堪能し、楽しんでいただきたいと思います」とのご挨拶がありました。

その後、広島森林管理署の里見昌紀署長の乾杯のご発声で交流会の開会となりました。

交流会では、広島県安芸太田町の松原神楽団により広島伝統芸能の広島神楽が披露され、その迫力のある演舞で会場は大いに盛り



中井近畿中国森林管理局治山課長



お世話になった大阪協会の皆さん

上がりました。

会の終盤には、来年の技術現地研修会の当番協会となる長野林業土木協会の木下 修会長から、「来年の技術現地研修会は長野県軽井沢町での開催を検討しているので、多くの会員の皆様にお越しいただきたい」との挨拶がありました。

最後に、田中 進副会長の中締めによって名残つきな交流会は閉会となりました。



玉井広島県副知事



木下長野協会会長

3 現地研修

翌23日は、貸切りバス4台に分乗して、広島平和記念資料館を見学した後、平成30年7月の豪雨で被災した東広島市黒瀬区域の民有林直轄治山事業地で現地研修を行いました。

東広島市の黒瀬区域は、平成30年7月6日から翌7日にかけての梅雨末期の豪雨により、山腹斜面が大規模に崩壊し、直下の住宅等に甚大な被害をもたらしたもので、令和元年から民有林直轄治山事業により、復旧工事が行われています。現地では崩壊地を遠望しながら広島森林管理署の坂後 浩山地災害復旧対策室長から災害の概要や復旧の状況等について丁寧に説明していただきました。

その後、昼食会場に移動し昼食をとって、2日間にわたった技術現地研修会を終了しました。

この現地研修会にご協力いただいた近畿中国森林管理局及び広島森林管理署の皆様、1年以上前から準備を重ね現地研修会を成功裏に導いていただいた大阪林業土木協会の皆様には、改めて深く感謝を申し上げます。



現地研修会の様子

令和6年度 技術担当者連絡協議会を開催

11月18日(月)午後、都内の貸会議室において令和6年度技術担当者連絡協議会を開催しました。

この協議会は、各協会から提出された工事の設計・積算・施工等に関する改善要望事項を林野庁に事前に提出し、協議会の中で林野庁の担当官から回答をいただき、意見交換し、より良い受注環境にしていくことを目的に毎年開催している会議です。

協議の対象とする改善要望事項は、10月7日(月)に開催した林土連技術・安全委員会において要望内容を精査したうえで決定したものです。



木下委員長挨拶



有山施工企画調整室長

当日の協議会には、林野庁計画課施工企画調整室から有山隆史室長、小嶋公輝施工技術班担当課長補佐、水村年一積算基準係長、業

務課から山内三津雄企画官、佐井正幸災害対策分析官、加藤正治森林土木専門官にご出席いただきました。また、各林業土木協会からは、技術部門に関する指導的立場にある会員など36名が参加しました。

協議会は、冒頭に林土連技術・安全委員会の木下 修委員長（長野協会）から、「林野庁では「選ばれる森林土木」に関する取り組み

の一環として昨年度からキャラバンを実施し、林野庁や森林管理局・署の担当官の皆さんと我々会員が一堂に会して意見交換する場を設けていただいている。本日は、林野庁に対する改善要望事項について重点的に意見交換させていただきたい。現場では林野庁が令和2年から工事の受注環境の改善に積極的に取り組んでいただいている効果が現れてきているとの声も多く聞こえてきている。林野庁の皆さまには、さらに我々が抱える現状と課題についてご理解いただき、改善要望事項について前向きにご検討いただくとともに、森林管理署等の工事発注機関にも改善内容が徹底されるようお願いしたい」との挨拶がありました。

その後、協議会は堂本専務理事を進行役として各協会から現場の実態や改善が必要な理由などを説明し、これに対する林野庁の回答を担当官からいただく形で進められました。



技術担当者連絡協議会の様子

今回も各協会からは多岐にわたる改善要望事項が提出され、時間一杯熱心な議論が行われ、有意義な協議会となりました。林野庁には、適正な利潤が確保され、林野公共工事がより魅力あるものとなるよう、具体的かつ実効性のある対策を引き続き講じていただくようお願いいたします。

今回、意見交換した改善要望事項については、後日、林野庁から文書で回答をいただき、各協会及びこの会議の出席者に送付することとしています。

出席いただいた林野庁の皆様には、改めて厚く御礼を申し上げるとともに、今後とも御指導をお願いいたします。

コンプライアンス講習会及び労働災害防止研修会を開催

11月19日（火）、都内の貸会議室においてコンプライアンス講習会及び労働災害防止研修会を開催しました。

1 コンプライアンス講習会

林土連では、公共工事を受注する会員企業の法令遵守と企業倫理等の意識の向上を目的に、コンプライアンス委員会を設置しています。この委員会での重要な活動のひとつとして平成26年の委員会設置以来実施しているコンプライアンス講習会を今年も開催しました。講習会には、各協会でコンプライアンス活動を推進する立場にある会員など40名が出席しました。

講習会冒頭、林土連コンプライアンス委員会の田中 進委員長（青森協会）から、「本日の講習会の内容を十分に理解し、それぞれの協会内においてコンプライアンスの維持・向上に向けた取り組みをさらに推進してほしい」との挨拶がありました。

今年の講習会は、「発注者綱紀保持について」と題して、林野庁林政課監査室の河野裕之室長よりご講演をいただきました。

講演では、主に農林水産省発注者綱紀保持規程についてご説明をいただき、発注者と事業者の応接方法や不当な働きかけに対する対応等について認識を新たにしました。



河野林野庁監査室長



コンプライアンス講習会の様子

2 労働災害防止研修会

この研修会は、当協会にとっても重要な課題である労働災害の防止、特に重大災害の絶滅に向けた取り組みとして毎年開催している

研修会です。今年の研修会には各協会で技術・安全関係を指導する立場にある会員など42名が参加しました。

研修会では、「世界の林道と安全」と題して東京大学名誉教授酒井秀夫様よりご講演をいただきました。

講演では、世界各国の林道の概要や開設技術に関するご説明をいただき、多くの知識を得ることができました。



酒井東京大学名誉教授



労働災害防止研修会の様子

令和7年度当初予算の要望活動を実施

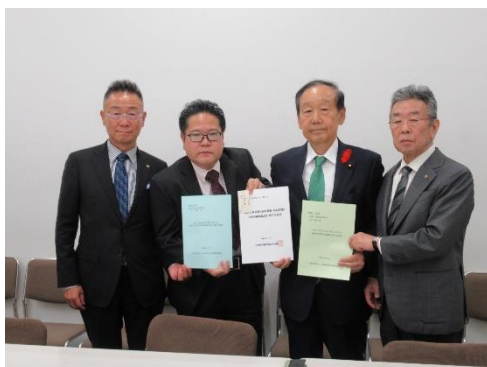
11月13日（水）、林土連は令和7年度当初予算の増額確保を目的に（一社）日本治山治水協会、（一社）全国森林土木建設業協会と合同で、令和7年度林野公共事業予算に関する要望活動を実施しました。

この要望活動には、日本治山治水協会の山口俊一会長にも同席していただき、青山豊久林野庁長官と財務省の山川清徳農林水産担当主計官に各団体からの要望書を手渡ししました。

青山林野庁長官からは「林野庁としてしっかりと予算確保に向けて取り組んでいくので、今後とも支援をお願いしたい」とのお話がありました。



林野庁長官に予算要望



財務省の山川主計官に予算要望

**森林整備・治山事業促進議員連盟
緊急決起大会が開催される**

11月19日（水）、参議院議員会館の会議室において、森林整備・治山事業促進議員連盟の緊急決起大会が開催されました。

この決起大会は、昨今の自然災害の激甚化等の情勢を踏まえ、国民の「いのち」と「暮らし」を守る「緑の国土強靱化」をはじめ林

業の持続的な発展等に向け、林野公共事業は不可欠であり、令和7年度林野公共事業予算の一層の増額を目指し開催されたものです。

大会には、山口俊一議連会長はじめ、国会議員36名（代理出席含め82名）が出席するとともに、当協会のほか、（一社）日本治山治水協会、全国森林組合連合会、（一社）全国森林土木建設業協会などの団体から約80名が参加しました。

冒頭、山口議連会長から、「森林整備も含む「防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策」を実施しているが、まだまだ対策が必要な箇所がある。林道をはじめとした森林整備予算についても花粉症対策を含めた取り組みが必要。林野公共事業予算はあと一息で、700億円に届く水準。関係者が一致団結して、林野公共事業予算の確保に向けて頑張っていきたい」とのご挨拶がありました。



山口俊一議連会長



新谷会長の要望陳述

続いて、来賓の山本佐知子農林水産大臣政務官からの激励のご挨拶の後、「現場の声」として、秋田県上小阿仁村の小林悦治村長、石川県森林組合連合会の近藤安為代表理事会長から、森林整備・治山事業予算の確保を求める切実な要望がありました。

次に、関係三団体から、決起大会開催への御礼と現場の実態を踏まえた要望が行われました。

この中で新谷会長からは「災害に強い森林（もり）づくりによる「緑の国土強靱化」を強力に進めるため建設資材価格の高騰や人件費の上昇に対応できる安定的かつ継続的な林野公共事業予算の確保が必要不可欠である」と訴えました。

その後、滝波宏文議連事務局長より「令和7年度林野公共事業予算に関する決議」が読み上げられ、満場一致で採択されました。

最後に、山口議連会長から、予算獲得に向け後日財務省への要請も行うことに触れ、盛会のうちに終了しました。



議連緊急決起大会の様子

「2024治山・林道のつどい」を共催

11月20日（水）、海運クラブにおいて全国治山林道協会会長会議主催（全森建、林土連共催）の「2024治山・林道のつどい」が開催されました。

今年は、関係団体から約450名が参加する中、日本治山治水協会の山口俊一会長をはじめ国会議員94名（代理出席を含む）にご出席いただきました。

「つどい」では、山口会長のご挨拶の後、お忙しい中、公務の合間を縫って駆けつけて下さった滝波宏文農林水産副大臣からご祝辞をいただきました。

次に、（一社）全国森林土木建設業協会の山藤浩一会長の挨拶に引き続き、当協会の新谷会長からは「被災地の早期復旧はもちろん、災害の未然防止のため、国土強靱化対策や、主伐・再造林に必要な基幹林道の開設・改良に鋭意取り組んでいく。本日の「治山・林道



新谷林土連会長



田中林土連副会長

のつどい」では、治山、林道事業の重要性を再認識し、これら事業の実施に必要な予算の拡充・確保に向け、関係者が一丸となって取り組む決意をしたい」との挨拶がありました。

その後、林野庁の眞城英一国有林野部長から森林整備事業・治山事業の推進について基調報告がありました。

続いて、会場からの声として、林土連の田中 進副会長、岐阜県山林協会の山内 登会長（岐阜県下呂市長）が要望陳述を行いました。

田中副会長からは「青森県はこれまで大雨の発生頻度は少ないと考えられていたが、令和3、4年と連続して大雨による甚大な被害が発生し、地域のくらしを守る治山・林道事業の重要性を再認識した。これまで復旧に全力で取り組んできたが、治山・林道といった森林土木工事は現場条件が悪く、担い手の確保に苦慮している状況。国土強靱化5か年加速化対策を踏まえた予算の安定的な確保を強く要望するとともに、資材価格高騰や山間奥地の厳しい現場条件を踏まえた設計・積算の改善をお願いしたい」と訴えました。

最後に、岐阜県山林協会の山内会長が「林野公共事業予算の拡充に関する決議」を提案し、満場一致で採択され盛会のうちに終了しました。



「治山・林道のつどい」の様子

「会員からの声」

北見の魅力は厳寒期にこそアリ!?

興和建設株式会社

代表取締役 佐藤 由晶

(北見林業土木協会)

はじめに、本年も年始から地震、台風と自然災害が発生しており、各地域において被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

今回は北海道の地から、興和建設株式会社が「会員からの声」をお伝えします。

弊社は1962年、森林土木工事を専門とする「林業土木株式会社」として創業し、以来、北海道営林局北見支局管内発注の工事を数多く施工してまいりました。現在は社名を「興和建設株式会社」に改めましたが、引き続き北海道森林管理局北見事務所管内における治山・林道工事を請け負わせていただくなかで、会社の歴史を刻んでいるところでございます。

拠点を置く北見市は人口11万人。北海道東部 北見山地南部の東側中央の盆地に位置し、オホーツク総合振興局（旧網走支庁）管内最大の都市となっております。2006年に周辺3町と合併したため、その面積は1、427・41平方キロメートルに拡がり、北海道内の市町村では最大です。また、市内の東西に延びる道路の距離

は約110キロメートルで日本一の長さを誇り、こちらは箱根駅伝片道分の距離にも相当します。周辺には大雪山国立公園、阿寒摩周国立公園、知床国立公園、網走国定公園といった多様な特色を有する自然公園が存在し、農林水産の一次産業が大変盛んな地でもあります。当地は盆地であることから、日本有数の寒暖差が存在しており、盛夏には気温が35度を超える一方で、厳冬期ではマイナス30度まで冷え込み、年較差は60度を超える土地でもあります。言いかえるならば日本で一番四季がはっきりした街であるとの表現もできると思っております。そして過酷ともいえるこの自然環境こそが、ここでの産業を育んでいます。

当地開拓時の農業では和種ハッカの生産が著しく伸び、1939年には全世界7割の生産量を占め、地域を代表する重要な産業に成長しました。このハッカ産業の発展に大きく貢献したホクレン北見薄荷工場の一部が「北見ハッカ記念館」として保存・展示されており、2007年には日本近代化産業遺産として国の指定を受けてお



ハッカ



ハッカ資料館



タマネギの収穫

ります。

近年においては、ハッカの栽培からタマネギへと転作が進み、現在では全国のタマネギ収穫量の五分の一を北見産で占めるほどブランド化しており、日本一の生産地となっております。

Rするため、ご当地グルメとして「オホーツク北見塩やきそば」や「北見焼肉」が誕生しています。

北見産タマネギやオホーツク海産のホタテ、道産小麦を使用した麺など地元食材にとことんこだわり、現在、市内の飲食店10店舗ほどで提供される「塩やきそば」が、昼食のメニューとして親しまれています。熱々の鉄板に盛り付けられ、各店特製の塩ダレで味付け。仕上げに「魔法の水」をふりかけてお召し上がりください。

一方、夕食時ともなりますと、市内のあちこちから肉の焼けるいい匂いが漂ってきます。人口



塩焼きそば

あたりの焼肉店数が全道一多
いという「焼肉のまち」が本領
発揮するお時間です。市内には
焼肉店が70店舗ほど存在して
いるのです。

北見焼肉の特徴としては、ホ
ルモンなどの内臓肉を炭火で
焼き、生ダレに浸けて食べるス
タイルです。そして焼肉に関す
るイベントとして特に有名な

のが、毎年寒さの厳しい2月に屋外で行われる「厳寒焼き肉まつり」
で、道内外遠くは沖縄からの参加者もいて、2千人が集う大人気の
催しとなっています。マイナス20度まで冷え込む広場で、凍りつき
そうなビールを飲みながら、赤熱した炭火で焼いた肉を凍った生ダ
レに入れ、肉の熱でダレを解かしながら食べるといふ当地ならではの
イベントです。

食のほかにスポーツの分野で北見の地が全国的に大変話題とな
っているのですが、皆さまのなかで頭に思い浮かんだ方はいらっし
やるでしょうか？

「氷上のチェス」とも称されるあのスポーツです。

2018年の平昌、2022年の北京冬季オリンピックにおいて、
北見市出身の女子カーリングチーム「LS北見/ロコ・ソラーレ」
がメダルを獲得しております。特に2018年大会時にはハーフタ
イム中での「もぐもぐタイム」と、試合中に多用された何気ないと



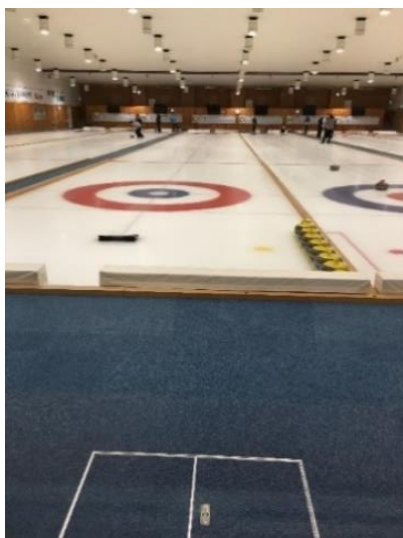
厳寒焼き肉まつり

ある単語が「2018年新語・流行語大賞」にノミネートされ、「そ
だね」が年間大賞に輝きました。市内の2か所に通年利用できる
カーリングホールがあり、必要な用具類を借りることもできるので、
気軽に体験することが可能となっています。小中学生の冬期間の体
育授業としてカーリングに取り組む学校もあり、次世代アスリート
の発掘・育成に努めているところです。

このように当地の魅力は、日本一ともいえる寒さでの体験と食味
に集約されているのかもしれない。ぜひ、あえての厳寒期にお越
しいいただき、オホーツク海の流水観光とともにカーリングを体験。
お昼には塩やきそば、夜は焼肉とご賞味くだされば幸いです。ごさい
ます。

街の様子をいろいろと紹介してまいりましたが、これまで北見は
道内でも比較的自然災害の少ない地域でした。しかし2016年8
月には、わずか半月余りで5つの台風が襲来し、過去に経験のない
大雨と暴風を経験しました。各地で記録的な被害をもたらし、当地
でも石北峠において大規模な土砂流出が発生する事態となりました。

気候の変動が顕著
になってきている昨
今、地域社会のインフ
ラを守り、郷土のくら
しと魅力も守って行
けるよう、弊社はこれ
からも日々精進して
まいります。



カーリング場

● ● ● 協会の主な動き ● ● ●

● ● ● 編集後記 ● ● ●

令和6年

10月7日(月) 第2回技術・安全委員会

(山王グランドビル共用会議室)

10月22日(火) 林土連技術現地研修会(広島市ほか)

10月23日(水)

11月18日(月) 技術担当者連絡協議会(DAYS赤坂見附)

11月19日(火) コンプライアンス講習会

11月20日(水) 労働災害防止研修会(DAYS赤坂見附)

12月5日(木) 第6回理事会、三役会議(海運クラブ)

令和7年

1月23日(木) 第1回理事会、三役会議(海運クラブ)

コンプライアンス委員会(海運クラブ)

2月18日(火) 令和7年度定時総会及び関連行事

(ホテルポール翹町)

● ● ● 今後の予定 ● ● ●

◎ 令和6年11月22日「国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策」が閣議決定されました。この中には、国民の安心・安全の確保として自然災害からの復旧・復興への対応や防災・減災及び国土強靱化への推進が盛り込まれています。政府は、今後、これら対策の裏付けとなる令和6年度年度補正予算を速やかに編成し、国会での早期成立を目指すとしています。

◎ 年末に向け令和7年度当初予算編成も大詰めを迎えます。林土連は、各協会のみならず共に林野公共事業予算の拡充・確保に向けて要望活動を展開してきました。今後とも予算の拡充・確保に向けた取り組みを引き続きお願いします。

◎ 12月を迎え、本年も残すところわずかとなりました。冬期の厳しい環境のもとでの現場作業となりますが、労働安全の確保により一層留意していただきますようお願いいたします。

各協会及び会員企業の皆様方が、輝かしい新年をお迎えいただけるよう祈念いたします。

一般社団法人

日本林業土木連合協会

東京都千代田区永田町二一四一―二

山王グランドビル三階

(TEL) 〇三―三五八―一七七〇四

(FAX) 〇三―三五八―〇一八四〇三

<http://rindoren.or.jp>

発行者 堂本 整

